

各学年の取り組み

Ⅰ 学年 展開計画

Ⅰ 学期(共通内容)

日程		活動内容
4/21	木	オリエンテーション・個人で指定テーマでブレインストーミング【宿題】
4/28	木	指定のテーマで情報の調べ方・収集実践 東京学芸大学の探究 YouTube
5/12	木	アウトライン(プレゼン資料の型)を指定し, 発表準備
5/26	木	グループ内発表 → 「スタンディングデスクの活用」をテーマに紙芝居形式(手書き)で実施
6/2	木	改善に向けた推敲①(発表での気づき紹介・改善に向けた推敲) 探究テキストを利用, 「問い立て」の仕方
6/16	木	改善に向けた推敲②
6/23	木	高校生ならではの探究活動にレベルアップさせる作戦・実践①
7/15	金	発表会 高校生ならではの探究活動にレベルアップさせる作戦・実践②
		クラス発表・他者評価による代表決定【HR 教室】
		探究的学びを経験した先輩と語る会【柏陵ホール】
		講師自己紹介→講師の探究活動と今のつながり→事前質問を元にパネルディスカッション →講師による講評・自己評価と振り返りアンケート

2 学期以降

日程	知の探究コース	一般コース
7/20 夏季休業中	「アイデアの出し方・しぼり方」 2 学期以降のテーマを考える。	
9/1	木 プレゼン①夏の取り組み内容 評価シート①(自己評価)	2 学期の予定確認・探究を通じて自分がやってみたいことを考える
9/15	木 プレゼン②	行政連携授業① 身近な地域課題から, 地域社会の構成とそれを支える仕事を知る
9/22	木 『水の東西』を題材とした授業 様々な視点について学ぶ	学んだ課題共有・丹波地域の課題を住民目線で考え, 共有する意義を学ぶ
9/29	木 テーマ設定・希望面談	行政連携授業② 身近な地域課題の解決方法の考え方を学ぶ
10/6	木 テーマ設定・希望面談	グループワークの作法を学ぶ
10/20	木 どのような調査を予定しているかの共有	与えられた地域課題から解決すべき問題点を絞り込む① ブレインストーミングから関係考察
10/27	木 テーマ決定 探究テキストを利用して, 「仮説の立て方」と「発表評価」	与えられた地域課題から解決すべき問題点を絞り込む② ウェビングマップを用いた分析
11/10	木 フィールドワークの充実に向けて アウトラインの考え方を理解する	中間報告会に向けた発表準備 手順・役割分担・評価項目などの確認

11/17	木	発表時に意識したいこと 11/28 市立尼崎高校発表交流	行政連携授業③ 中間報告会(2時間連続) ・焦点化した門外の提示と解決が重要と考えた理由
12/1	木	共通な悩みた問題に対する支援 12/18 東京学芸大学主催イベント(東京)発表・・・6名参加	中間報告会で得られた助言をもとに研究計画を再検討・ 最終発表枠組みの説明
12/22	木	スライド作成・発表練習	発表スライド枠の共有・冬休み課題(主張に対する根拠) 検討
1/12	木	発表・スライド修正	発表スライド作成①
1/19	木	発表・スライド修正	発表スライド作成②
1/26	木	発表・スライド修正	発表スライド作成③および通し練習
1/27	金	活動報告会「地域課題から世界を考える日」	
2/9	木	振り返り・自己評価	発表会で得られた助言をもとに振り返りレポート作成①
2/16	木	活動報告まとめ	1年次総探評価アンケート実施・振り返りレポート②
3/2	木	活動報告まとめ	振り返りレポート③ ・高校生活における学びの計画レポート作成
3/16	木	活動報告まとめ	振り返りレポート④

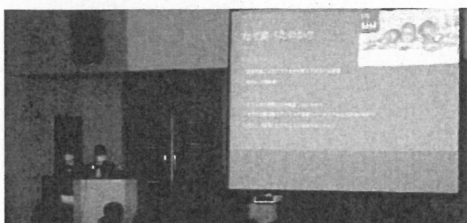
## 1 学年活動報告

1 学年主任 廣内健人

第一学年は、探究活動の基礎基本を習得することを意識した活動を行った。1学期はテーマを指定して(スタンディングデスク)、調べ方・推敲・発表を実際に行いながら手法を習得する練習を行った。また7月の丹 BAL 発表会では、探究的学びを体験した先輩と語る会に参加し、模範解答のない問に対して自分なりの理解を求めて取り組んだ先輩たちの実例をもとに、自らの振り返りを行った。

2学期以降の活動では、テーマを身近な課題に求めて、1学期に学んだ手法の実践および探究的な考え方のさらなる理解を試みた。1組は生徒各自の興味関心を出発点として、テーマ設定そして内容の深化に至るまで、担当教員らの助言を受けながら個別の活動を行った。2～5組については、生徒たちに身近なテーマの設定を検討するなかで、丹波市役所のご協力を頂いて7つの身近で具体的な地域課題(公共交通、環境教育、健康管理、化石資源、生物多様性、高校改革、国際比較)の設定を行った。市役所の職員から各講座についての講話を聴き、生徒の希望に沿って各講座への振り分けを行った。そしてその内で少人数のグループを作り、市から与えられた情報から課題を設定し、問題点を見つけ出し、それに対しての自分たちなりの解決案をデータなど証拠をもとにまとめようとする取り組みを行った。学年全体のまとめとして、1月27日の「地域課題から世界を考える日」において今年度の成果を発表した。

今年度の取り組みを基に、習得した探究的な考え方や手法・主体的な態度・協働する姿勢などを更に深化向上させ、自己実現に結びつくよう、次年度以降の取り組みにつなげたい。



探究Ⅰの活動では、「答えがすぐに見つからなかったり、答えが複数あったりする問いに対して、自分なりの答えを探していく活動」を目指し、自分の興味関心のある事柄で、疑問に思うことから探究するテーマを探し、それについて、自分の頭で考えて自分なりに答えを出して進んでいくという活動を進めた。

1学期最初のガイダンスでは、興味関心のあるものからスタートし、気になることを深く考えて、自分なりの答えを出していくことを繰り返すのが探究であること。その活動を通して、課題の設定、情報の収集、情報の整理分析、まとめ表現のスキルを身に付けることを目標にすること。そして、探究の先にあるのは、就きたい職業や学びたい学問に繋がるものであることなどの説明を受けた。続いて、「スタンディングデスクの活用」というテーマで、探究発表をするまでの一通りのスキルを学んでいった。

また、7月15日の「探究的な学びを経験した先輩と語る会」においては次のようなことが語られた。

- ・迷い続ける楽しさ、面白さ、どうしたらわからないモヤモヤを大切に
- ・自分の能力を使おう。高校生でも大人と対等に戦える。
- ・周りの価値観で生きるのではなく、自分の幸せを考えたい。
- ・正解が分からなくても、自分の経験に自分で意味を見いだせたら良い。

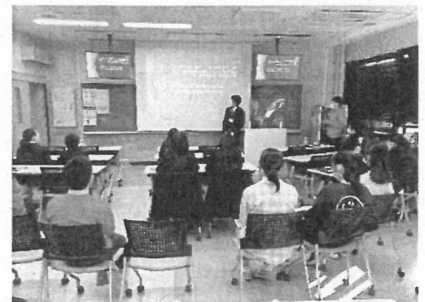
2学期には、スキルアップを図りながら、個人テーマに沿って探究活動をした。2学期の取り組みは、生徒の人数分のテーマが存在しているのだから、常に、クラス内でどのようなテーマに取り組んでいるのかを意識し、卒業生を招き興味のある話が聞ける機会を設定したり、先行論文を紹介したりするなどのことを考えた。基本的には、生徒の興味関心のあるもので、生徒のスピードに合わせての活動だったので、担当者としては、スキル面を教示することと情報収集で外部との仲介役をする程度であった。



11月30日に生徒アンケートを実施した。

- ・テーマ設定は、やりやすさ、楽しさ、深まりの観点から総合的に見て自由設定を希望している生徒が多い。
- ・地域課題に取り組むには、講義を受けるより、実際に地域テーマに取り組むことを希望している生徒が多い。
- ・探究スキルは、実際にテーマに取り組みながら学びたいと考える生徒が多い。
- ・探究に取り組むにあたって、進路活動と繋がりたいと考えている生徒が多い。
- ・スキル面のサポートが必要である。
- ・悩みは個人個人異なるので、常時面談を通して意識の共有が必要である。

東京学芸大学の「探究共創イベント」に6名が参加し、取り組みを発表できたことは評価したい。課題と今後の予定として、2学期以降、自由テーマ設定にして取り組んできたが、テーマ設定に思っていた以上に時間がかかった。これは、担当者で個別面談をすることで深く考えることに結びついたもので、大切な時間であったと考える。しかし、テーマ設定から発表までの時間で、情報を収集する時間が不足した。そのため、単年度内で成果物の完成までを目指すのではなく、学年を超えた展開設計が必要と感じた。



2 学年展開計画

月	日		知の探究コース(2 コマ連続)	一般コース
4	14	木	オリエンテーション	オリエンテーション
	21	木	学術論文の調べ方,呼んでもらいたい講師選び	テーマの設定
	28	木	講師講話 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	グループ分け ・活動計画作成
5	12	木	丹波市役所各課の講話	1学期研究テーマ決定
	19	木	班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究①
	26	木	丹波地域で活躍する講師講話1 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究②
6	2	木	丹波地域で活躍する講師講話2 班で講話をまとめ,発表,情報共有化(ブレインストーミング,KJ法→ポスター作成→発表=共有化)	班別研究③
	16	木	班分け(自分の取り組みたい課題) →問い立てへ	中間発表に向けた準備
	23	木	自分の課題に対応した先行研究検索と特定/精読	中間発表に向けた準備
7	14	木	先行研究紹介 夏休みフィールドワーク内容吟味・精査・日程決定	中間発表準備
9	1	木	テーマ設定	2学期のテーマ設定
	8	木	テーマ設定	活動計画の作成
	15	木	テーマ設定	班別研究①
	22	木	研究テーマ確定 論文構成(1次)完成←モデル論文の真似	班別研究②
	29	木	仮説設定:調査すべき対象の明確化・モデル論文選択	班別研究③
10	6	木	モデル論文精読 集めるデータ明確化,論文構成の位置づけ	班別研究④
	20	木	データ集め→グラフ化・表化	修学旅行に向けて①
	27	木	データ集め→グラフ・表を入れて,伝えたいことの箇条書き	修学旅行に向けて②
11	10	木	伝えたいことの箇条書き・外部発表に向けたパワポ作り	修学旅行に向けて③
12	1	木	外部発表パワポ完成 期末考査後データ追加・パワポ修正	発表会に向けて①
	15	木	外部発表パワポ修正・発表練習	発表会に向けて②
	18		外部発表(甲南大学リサーチフェスタ)	
	20	火	2年1組・1年1組発表会	クラス発表・学年発表
	22		発表を受けての省察	
1	12	木	発表を受けて内容の修正	発表内容修正
	19	木	内容の修正	発表内容修正
	26	木	発表練習	発表練習
	27	金	活動報告会「地域課題から世界を考える日」	
2	5		高校生 SDGs探究発表会参加	
3学期			総合選抜型入試基準のパワポ・ポスター作成	成果まとめ・振り返り

## 探究Ⅱ(2年1組)活動報告

2年1組担任 西本 秩抄

昨年度の探究Ⅰでは、地域の課題について探究活動を行った。生徒達に昨年の感想を聞くと、「問い」を立てることの難しさを感じている一方で、グループ内で話し合いながら探究を進めていく協働作業に関しては一定の楽しさを覚えたようであった。しかし、探究Ⅱにおいて、昨年度のテーマを引き継ぐのかどうかについては、ほとんどの生徒が「新たなテーマを設定したい」と答えた。今年度は、まず1学期に丹波地域で活躍する講師の方々のお話を聞き、そこから徐々にテーマを絞っていく作業を行った。そして、1学期の終わりには、1名~6名編成の12の班に分かれて探究活動を行うこととなった。夏休みから2学期当初にかけては、論文精読やフィールドワークを行った。先行研究の論文を読むことによって、課題をはっきりと捉えられた班もあったが、論文の内容をきちんと捉えきれないところもあった。フィールドワークにおいても、自分たちのニーズに合ったフィールドワーク先が見つかり、貴重な話が聞けた班もあれば、フィールドワークを行うこと自体が難しかった班もあった。また、最初に立てたテーマでは思うように進まず、テーマが二転三転した班がいくつかあった。どの班も、校内外でアンケートを実施したり、インターネット上でデータをとったりしながら、課題に対する自分たちなりの答えを探索作業を行った。12月には、甲南大学のリサーチフェスタに参加し、オンラインではあったが初めて校外に向けての発表を行った。また、校内でも1年生と合同での発表会を行い、1月の「地域課題から世界を考える日」、2月の兵庫高校での「SDGs探究発表会」など、発表の機会が続いた。生徒達は、他校の発表を聴き、自分達の成果を発表する中で、自分達の探究がまだ途上であることを感じたようである。

やはり、自身の興味・関心のあるテーマを設定し、そこから問いを立て、データを集め、分析し、仮説を立てて検証する一連の作業を行うには、それなりの時間を必要とする。探究Ⅰ、探究Ⅱと行う中で、それぞれ単年度での一定の成果を出すことはできた。しかし、探究Ⅰ~Ⅱの2年間を一つの大きな塊として活動できれば、もっと様々な紆余曲折を経ることで、より深い探究の学びや、探究の楽しさを感じられたのではないかと思う。ただ、探究に向かう姿勢、探究活動を行うためのスキルは身につけることができた。これを、さらなる学びに生かしてほしい。

## 総合Ⅱ(2年2組~5組)活動報告

2学年主任 梶村 康人

一般クラスでは、自分の興味関心に応じて、特に自分の将来したいことや進路に繋がるようなテーマを設定して探究を行った。また、テーマによってではあるが、1年次の「丹波の魅力をおすそ分け」の続きで丹波地域の課題を考え、修学旅行で行く沖縄と比較したりするなど地域課題も含めて探究活動を行った。

研究班は5人までとし、個人での活動も可とした。また、基本的にはタブレットを使って教室で行った。テーマの設定についても調べ学習や何回でも再設定可とし、「学びのサイクル」の中でテーマを深めていけるようにした。また、7月に中間発表を行い、そこでの課題を夏休みのフィールドワークに生かすことによって2学期の活動に繋ぐようにしようとした。10月からは沖縄修学旅行を念頭に置き、現地でのフィールドワークなどの計画を立て、研究テーマに取り入れることができる班が活動や発表に生かせるようにした。12月に研究発表会を行い、各班で取り組んできた成果をスライド発表した。発表の内容は、それなりに形にはなっているものの、調べ学習の範疇から抜け出していないものが多く、内容がまだまだ深められていないという印象であった。その発表内容が出発点であり、そこからまた新たな「問い」を考えたらもっといいものができるのではないかと思った。次の学年に研究を引き継ぎ、それを代々繋げていくことが大切である。1月には、「まとめ」として、スライドと文章でA4数枚にまとめる作業を行った。週1単位なので、論文を書くことはできなかったが、せめて次の学年が生かせるような形にしたいと考えている。

最後に、探究学習をすることによって生徒の何を伸ばし、どのような力を身に付けさせるのかという具体的なビジョンを考え、次の学年につなげていくことがこれからの課題であると考えている。

### 3 学年展開計画

#### 【総合的な探究の時間】一般コース

日程	学習内容	留意事項
4 / 18 月	オリエンテーション 他己紹介取材	具体的な進路実現に向けて クラス単位でペアリング作成 ペアの相手の紹介をするための情報収集&紹介原稿作成
4 / 25 月	他己紹介発表①	クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 2 月	他己紹介発表②	クラス毎に他己紹介の発表をしていく
5 / 9 月	自己紹介文作成	他人からの評価を踏まえて自己紹介文の作成
5 / 16 月	面接試験について	資料の調べ方・受験報告の見方・所作等の基本事項
5 / 23 月	面接実戦練習準備①	自分の進路希望先の情報収集
5 / 30 月	面接実戦練習準備②	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集①
6 / 6 月	面接実戦練習準備③	メンバーの希望進路の調査&希望先情報収集②
6 / 13 月	面接実戦練習準備④	メンバーの模擬面接官質問用紙の作成
6 / 20 月	面接実戦練習準備⑤	自分の進路先面接ノートの制作(志望動機作成)
6 / 27 月	模擬面接練習①	面接練習及び問題点の洗い出し
9 / 5 月	模擬面接練習②	2回目の面接練習
9 / 12 月	小論文講座①	表記, 構成など基礎事項のふりかえり
9 / 26 月	小論文講座②	志望理由書のリトライ
10 / 3 月	小論文講座③	自己PRの仕方
10 / 24 月	小論文講座④	自己PR書の完成
10 / 31 ~	まとめ	ポートフォリオの形式でまとめる

#### 【グローバル】学校設定科目(文系選択科目)

	知の探究コース(選択人数 3 人)	一般コース(選択人数 13 人)
1 学期	テーマ設定	課題研究について ・調べ学習と探究活動の違い・個人研究のテーマ決め ・リサーチクエスチョンについて
	台湾との交流・インタビュー Zoom	研究計画書の作成・フィールドワーク計画 パワーポイント作成 ・中間発表会
2 学期	個人での研究	・調査分析
	プレゼンテーション作成	・まとめ・発表練習会 ・探究活動発表会
	英語によるプレゼンテーション	論文作成

3年間の総合的な探究の時間を終えて

3 学年主任 土井 敬子

3年間を通じて、基礎知識の獲得→討論→整理・創造→発表という流れを多く取り入れて活動してきた。身につけさせたい力(①聴く力 ②読む力 ③伝える力 ④考える力 ⑤発表する力 ⑥協働する力)のうち、特に⑤の発表する力は目に見えて向上した。発表に至るまでの過程で協働をすることもできるようになった。特に1年次はコロナ禍で協働する機会が極端に少なく、総合の発表が良い機会となった。

「地域課題から世界を考える」ために、まずは自分の住んでいる丹波地域に目を向け、その魅力を再認識し、発信することの大切を学べたと思われる。自分の住んでいる地域だけに留まらず、台湾との交流や他の地域を知ることにより、視野や考え方を広げられたのではないかと。そして、自分自身を見つめなおし、模擬面接を実施することにより、進路に対する考えを整理分析し、更に志望理由書を作成することにより、進路実現に向けた意欲を高めることができたと思われる。

第1学年:

内容:地域の魅力に関する探究活動。探究活動に対する基礎学習をした後、班で協働学習をした。地域の魅力を見つけ、班内で討論し、テーマ設定。必要に応じ、フィールドワークやアンケートを行い、まとめ、発表をした。

ねらい:地域の魅力を知り、それを発信することにより、読む・書く・伝える・聴く・まとめる・表現する力をつける。その過程で協働することの大切さを学ぶ。

第2学年:

内容:日本における防災、台湾の歴史や時事問題について、書籍、講演会、修学旅行を通じて学び、台湾の高校生とオンラインで交流した。

ねらい:「防災」をテーマに台湾との交流を通して、海外の高校生の意識の違いを学び、その理解を深めることにより、国際理解をする。講演会を通じて台湾とは何か、国とは何か、国際交流とは何かを考える。また、丹波地域と修学旅行の行き先である九州との類似点と相違点を学ぶことにより、「防災」についてより深く学び、日本や自身の地域についての理解を深める。

第3学年:

内容:友人のプロフィールを作成し、他己紹介をする。それを基に自身のプロフィールを作成し、模擬面接を実施(面接官と受験者の両方を順番に経験)。更に志望校を詳しく分析、調査し、自身の志望理由書を作成。

ねらい:模擬面接や小論文に取り組む中で、他人を通して自己の魅力について考えるとともにそれを表現するための言動や文書スキルを学ぶ。また目的や意図に応じた情報の集め方を通じて、進路に対する考えを整理分析し、自分の考えや意見を深める。志望理由書を作成することにより、進路に対する意識や意欲を高める。

知の探究コース「グローバル」活動報告

3年1組担任 芦田 悠

この授業は、知の探究コース3年生の選択科目で、今年度は3名が履修した。個人でテーマを設定し、それを1年間継続して研究した。毎回、2名のALTが授業に入り、英語での活動や研究を行った。最終的には、研究したテーマを英語でプレゼンテーションすることを目標とした。2年時にグループで取り組んだ活動を発展させたり、そこから派生させた新たなテーマを設定した。テーマは、”The communication between foreign people : the best attitude for learning other languages “,” City sightseeing tours and sharing school experiences in practice, with reference to "Nagasaki Saruku" For the sake of building trusting relationships(長崎さるくのまちあるきの実践)”,” Bridge Project(高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト)”であった。

1学期は、テーマ設定を終えた後に、プレゼンテーションやインタビューの方法をALTから学び、最後のプレゼンテーションを意識して取り組んだ。それに加えて、5月から8月にかけて数回にわたり、台湾桃園市の治平高級中学の生徒（日本語を学習している生徒が中心）とオンラインで交流をした。互いの学校生活などを紹介し合い交流を深めた後に、研究テーマに関連する内容の質問を台湾の高校生に行った。探究に関連する話題にとどまらずに交流することができたため、生徒たちは「近くにある国でも文化の違いがあることを知ることを実感した。」「さまざまな価値観と触れ合う事ができるので自分自身と向き合えた。」という感想を語っていた。

2学期は、プレゼンテーション用のスライドの作成が活動の中心となった。伝えたい内容があるのに英語の語彙が追い付かないもどかしさを感じながらも、めげずに表現を増やしていった。12月20日の探究総合発表会で、他学年の生徒の前で英語でのプレゼンテーションを行った。



今年度は、3名の選択者のうち、2名が探究の内容を生かして、学校推薦型選抜や総合型選抜を利用して国公立大学を受験した。それらの入試を利用しなかった1名も、大学での専攻分野に関連する内容に関して深く研究を進めることができたという感想を語っている。

この科目は担当の教員が1名で、年度ごとに担当が変わるため、前年度の活動の内容を次年度に十分に生かし切れていない面がある。そこで、今後は研究の成果を次年度担当者に引き継いでいくことや、指導計画や指導目標を担当外とも共有し、この授業が1・2年時の探究活動の発展的なものになるようにしていくことが必要である。

## 普通科「グローバル」活動報告

指導担当 尾花尚史 大槻民久

### 1. 活動方針

- ・調べ学習とは違う探究活動の論理的思考を学ぶとともに、自らが自分の疑問を自らの活動で克服する喜びを体験させる。
- ・発表することで、自分の考えを人に伝えるスキルを習得するとともに、よりの確に考えを伝える力を育成する。

### 2. 探究活動の内容

- ・個人研究でテーマは自由とする。
- ・学校行事として研究内容の発表の機会をつくる。
- ・最終的に成果物として次年度に残す論文集を作成する。

### 3. まとめ（アンケート結果から）

取り組みについては、全員が意欲をもって取り組めたと回答しており、その中で積極的に取り組めた生徒が半数いた。また、この講座から学んだこととして、全員が論理的思考についての学びを実感しており、67%の生徒が論理的思考を学ぶことができたと回答した。最後に、受講生徒全員が受講して良かったと答えており、1年間の活動としての成果を上げることができた。





